

天文シミュレーションプロジェクト科学諮問委員会

日時と場所

- 2019年9月6日(金) 13:00-13:30, 16:00-17:30
- 国立天文台三鷹 中央棟(東) 第一会議室

出席者

- 出席委員：細川隆史（委員長）、藤井通子、田中雅臣（ZOOM 経由）
- 欠席委員：町田正博
- オブザーバ：常田佐久（台長）、小久保英一郎（CfCA プロジェクト長）、滝脇知也（科学研究部。書記）

議事録について

- 書記は今後もオブザーバが担当するものとする。今回は滝脇。
- 秘密保持契約に関する誓約書の署名は終了した。

本日の時間割の説明（小久保）

- 16時から台長が参加されるので、それまでは他の事項を議論する。

時間割り当て委員会（TAC）への委員の追加（小久保）

- 時間割り当て委員会（TAC）のメンバーとして天文シミュレーションプロジェクトの岩崎一成助教を追加したい。（小久保）
- 小久保が経緯を説明。岩崎は CfCA の専任であり、情報共有がスムーズである。これにより TAC の外部委員は 4 名、内部委員が 4 名となる¹。
- 【結論】異論はない。岩崎を TAC として認める。（細川）

富岳の利用について（小久保）

- 来(2020)年度から富岳が利用できる。CfCA から小久保、岩崎、滝脇が研究計画に参加する予定。
- 富岳の運用に際して HPCI コミュニティに配布される競争的資金があるが、

¹実際に上記のように報告されたが、実は誤っていた。正しくは内部委員が 3 名（滝脇、岩崎、伊藤）、オブザーバーが 1 名（小久保）である。

その予算規模は予想よりも小さかった。が、それを CfCA の計算機運用にも使うし、コミュニティの利用者のサポートにも使うことになる。

- もっと予算が大きければファイルサーバを買う予定だった。
- 富岳では解析サーバは提供されない。利用者のデータ解析は CfCA の解析サーバが主戦力となるだろう。これは京の時代もそうであった。
- HPCI 計画に関して文部科学省から国立天文台に配分される予算が予想以上に小さいため、CfCA が当初想定していた計画をすべて実現することは難しいかもしれない。

利用規則の微改定（小久保）

- CfCA の計算機利用規定があるが、ウェブページ上で公開されている現在の形式はお役所的なスタイルで整形されている。これを現代的な、企業的なスタイルに書き換えたい。
- 【結論】異論はない。（細川）

諮問事項について（常田台長）

- 現在の諮問事項は国立天文台全体のプロジェクト一般に向けて作られたもののなので粒度が低く、CfCA 向けには最適化されていない。
 - 他の研究施設および研究グループ（海外を含む）と比較して競争力があるか否かを定量的に評価することまでを本委員会で行うのは大変すぎるだろう。むしろ国立天文台の研究評価支援室が行うべき作業かもしれない。また、CfCA はユニークな組織なので、世界に適切な比較対象がない可能性もある。
 - （この諮問事項は）プロジェクト評価委員も現在見直している最中である。本諮問委員会とどういう役割分担なのかがはっきりしないが、同じことを複数の委員に頼むのは筋が通らないだろう。
- 本委員会の任期は 2 年間なので、長期的課題(の検討)も 2 年間ということであるか？（細川）
- そうである。もし、諮問事項が 2 年間で調べるには重すぎる課題であれば、「それはできない」と言って欲しい。
- この諮問事項が作られた背景は以下である。
 - CfCA は（配分されている予算額を考えると）よくやっていると聞いて

- いる。だがもしそうでないなら、「そうではない」と報告して欲しい。
- (あるプロジェクトが) 好調を維持していても、継続的に予算を確保するためには政府等に説明する武器が必要である。
 - そういう説明のための題材を準備して欲しいというのがこの評価の精神である。
- 台長として知りたいのは以下である。
 - CfCA の論文数が増えているのはなぜか？いつか飽和するのか？
 - KEK のスパコンの運用をやめたのはなぜ？それは良いことか？悪いことか？
 - 富岳が出来るから CfCA の活動を止めるということにはならないのか？
 - 諮問事項については（現時点では）うまく整理されていない。よって諮問事項自体を再定義するほうが良いだろう。
 - まずは国立天文台側から修正案を提案する。それに対してまた意見が欲しい。

諮問委員会のメンバーについて

- (一般にプロジェクトとは独立な立場で議論を行う) 科学諮問委員会ではプロジェクト内部の人間が居ないことが望ましい場合もあるので、(今回の人選では) CfCA のメンバーを委員から外した。が、これは(この委員会が) CfCA と距離を置けという意味ではない。CfCA に直に言いにくいことがある場合、CfCA のメンバーを外した委員会を開いても良い、という意味である。(常田)

これまでの委員会の運営について

- 昨年度までは理論専門委員会が存在し、理論研究部と CfCA の両方を取り扱っていた。(小久保)
- 高等研究院構想を理論専門委員会で話し合った際には、議論の結果が科学研究部の設立に全く反映されなかった。それには不満がある。また、本諮問委員会の結論もどのように使われるのかに不安がある。(細川)
- 今後はプロジェクト評価も科学諮問委員会での結論も広く開陳し、求められた通りの答申を必ず行う。(常田)

今後について

- （科学諮問委員と台長が）たびたびコミュニケーションを取ることが重要である。諮問事項については齋藤主幹・渡部副台長とも話し合う。（常田）
- 【結論】まず国立天文台側が上記の点を踏まえて諮問事項を修正する。
- 【結論】本委員会には次回以降も常田台長を招聘する。